



瓊浦高等学校
学校通信
第 103 号

令和3年3月18日発行
電話 095-826-1261
FAX 095-820-5245

瓊浦窓の「三上」

教頭 佐藤 一司

中庭の桜も開花し、いよいよ本格的な春の到来です。昨年から続く新型コロナウイルス感染対策による各種の行動制限の措置がとられ始めて、約1年以上が過ぎてしまいました。色々なことで制限がかけられた生活は不便で窮屈であり、改めて、これまでの「当たり前の生活」をおくることが、どれほどありがたく幸せであるのかを考えさせてくれます。しかし、現状ではまだまだ十分な収束の見通しが立っておらず、残念ながら「新しい生活様式」がこれからの「当たり前の生活」になってしまうような気もしています。

さて、私たちにとって春は、新たなスタートの季節であり、それぞれの人が色々な立場で新しいアイデアを求められる機会も多いと思います。しかし、一所懸命に集中して考えても、良いアイデアがなかなか思い浮かばずに困ったという経験をしたことがある人は少なからずいらっしゃるでしょう。私自身、いつも何のアイデアも思い浮かばず、「頭が固くなったのは歳のせい」と自分に言い訳ばかりして諦めてしまうことが多くあります。ところが、そこから離れて全く関係の無いことをしているときや、ぼーっとしているときに、ふとアイデアがおりてくることがあります。何となく不思議な感じがするのですが、たぶん、これに似た経験は誰にでもあるのではないかと思います。

皆さんは「三上（さんじょう）」という言葉をご存じでしょうか。この言葉は北宋時代に欧陽脩という学者が残したものだそうで、良いアイデアがおりてくるのは「三上」すなわち「馬上（ばじょう）」、「枕上（ちんじょう）」、「厠上（しじょう）」であるということです。「馬上」とは移動中の馬の上、つまり通勤や帰宅途中の乗り物の中のこと、「枕上」とは枕の上、つまり寝床の中でうとうととしているとき、「厠上」とはトイレの中のこととなります。果たしてこれが誰にでも共通して当てはまることなのかは判りませんが、いずれにせよこの「三上」の環境とはアイデアを絞りだそうと、集中して心が張り

詰めた状態ではなく、心が解放されてリラックスできている状態であるのだと思います。

春を迎え、新たな気持ちで仕事に集中することはもちろん大切なことですが、疲れて行き詰まったときは、いったん仕事から頭を切り離して、ぼーっとリラックスしてみることが必要なかもしれません。そこからふっと新しいアイデアがおりてくることもあるのではないのでしょうか。

卒業証書授与式

第72回卒業証書授与式が、3月1日（月）本校総合体育館にて挙行されました。今年度の卒業生は普通科101名、情報ビジネス科70名、機械科93名の計264名です。今年度も新型コロナウイルスの影響で、式の時間短縮、在校生の出席なし、保護者は1名のみの参加で教室には入らないなど、例年と異なる形式でした。それでも、3年生の表情は晴れやかで、次なる舞台への希望を胸にした前向きなものでした。

式の中で、校長先生から三つのところがけてほしいこと―「夢や目標を持ち、挑戦する人生を送ってほしい」、「常に感謝の心を忘れないでほしい」、「自分の持ち味、個性を大事にしてほしい」―のお話しをいただきました。今年の卒業生代表答辞は、普通科体育総合コースD組の町田脩太君。バドミントンで日本一を経験した彼は、瓊浦を「充実した3年間」としたうえで、支えてくれた人々への感謝を述べるとともに、次の大学での飛躍を誓いました。

制約の多い中でも多数の保護者の皆様にご列席いただき、誠にありがとうございました。今日までのご支援・ご協力に対し、心より感謝申し上げます。今後とも瓊浦ファミリーの一員として、本校を見守っていただきますようお願い申し上げます。



アベップフェス

3月12日（金）に「アベップフェス」と銘打った、競技大会と映画鑑賞会の合わさった催しが行われました。昨年から続く新型コロナウイルスの影響で、1年生の宿泊研修中止、体育祭と瓊浦祭の縮小、強歩大会の中止、そして2年生の修学旅行中止など、今年度も様々な行事が中止されたり、縮小開催されたりしてきました。そんな状況を鑑みて、今年度の終わりに何か思い出となるような楽しい一日を送ろうと企画されたのがこのアベップフェスです。この名称は、2学年主任の阿部（あべ）先生と、1学年主任の中別府（なかべつぷ）先生の名前を融合させたことに由来します。この名称だけでも遊び心が満載であり、楽しい一日を予感します。

1年生は午前中に映画鑑賞を行い午後から競技大会、2年生は午前中に競技大会を行い午後から映画鑑賞という日程。映画は1990年公開のアメリカ映画『シザーハンズ』。ジョニー・デップの名演に、生徒達は心奪われている様子でした。競技大会の種目は7月に行われた時と同じ将棋・オセロやソフトバレー、ドッジボールに加え、巷で話題のモルックが行われました。どの競技においてもそこには生徒達の笑顔があり、暗い話題で沈みがちな世の中を感じさせないような元気と明るさに満ちあふれていました。

最初に触れたように、令和2年度は常に新型コロナウイルスの存在を意識せざるをえず、なかなか思うように学校行事を実施できませんでした。いつまでこの状況が続くのか、今後の生活はどうなるのか、様々な不安が蔓延しているのが現状です。しかしこのアベップフェスを通して、それぞれが絆を深め、来年度への希望をもつことができましたと思います。3年生が卒業し、1、2年生はそれぞれ一つ学年が上がります。新2年生、新3年生として、明るさの絶えない令和3年度の瓊浦高校を作り上げていってもらえれば幸いです。



情報ビジネス科 課題研究発表会

2月27日（土）6時間目に情報ビジネス科の成果発表が行われました。これは情報ビジネス科の1・2年生を対象に、3年生が自らの進路状況や3年時に取り組んだことについて発表するもので、今年度は15名がそれぞれの成果を披露してくれました。今年の3年生は、新型コロナウイルスの影響もあり、校外での販売実習や訪問によるサイバーセキュリティボランティアなどは十分にできませんでした。校内で出来ることを中心に取り組みました。進路においても公立大学の合格や、コロナ渦で就職が厳しい中、自分が目指す職種に向け挑戦する姿が印象的でした。それらの自分の経験をもとに、1、2年次の内に何をすべきかを堂々と話してくれました。在校生も先輩方の姿を見て、自分で考え、行動して欲しいと思います。

上級学校見学会

3月10日（水）の午後から、上級学校見学会が行われました。普通科1年B組・C組は長崎県高等技術専門校へ、普通科1年A組と普通科2年A組は長崎外国語大学へそれぞれ赴き、施設を見学したり学校説明を受けたりといった体験をしました。両校とも毎年のように瓊浦から進学しており、今年度の卒業生も数名進学予定です。高校とは違った専門的な設備や雰囲気があり、生徒達は自分のまだ見ぬ世界に触れることで自分の将来についてしっかりと考えることができたようです。こうした機会を逃さずとらえて自分自身と対話し続けることが、3年次での進路実現への鍵となります。一日一日を無駄にせず、これからより充実した学校生活を送ってほしいと思います。

宮崎東平先生、堂々の全国ベスト16

先月号でお知らせしたように、宮崎東平先生が3月14日（日）に長野県で開催された全日本剣道選手権大会に出場しました。その結果、見事ベスト16という成績を残しました。3戦目で大会の優勝選手に敗れたものの、素晴らしい戦いを見せてくださいました。

戦いを終えて、宮崎先生は「憧れの舞台上自分らしい剣道ができたことが良かったです。多くの方から応援してもらい励みになりました。ありがとうございました。」と感想を述べてくださいました。また、今後の抱負として「今回はベスト16と満足する結果でしたが、これからまた上位を目指して生徒とともに努力していきたいです。」とも語ってくださいました。これからまた、宮崎先生の剣道から目が離せません。

←対戦相手（大会優勝選手）とのツーショット

